



おとなに見えるだろうか?と
うと不安です。と同時に、自
自身はたちという、一人前
おとなになったかという疑問が
あります。

まだ親のスネをかじって、社
会のためには何も貢献してい
ないまま、大人に見られてしま
うのでは、名ばかりのおとなと
か言いようがありません。

私が、本当の意味での成人式
をあげるのは親のスネをかじ
ることがなくなり自立する時だ
と考えるでしょう。その時にあ
らためて成人としての決意とい
うものを考えてみようと思いま
す。
そして、名ばかりのおとなか
ら卒業し、社会に通用する立派
な成人になりたいと思います。

成人としての 決意

古山 一郎



成人式を迎え決意も新たに
言いたいところだが、どうし
てもまだ私には、その実感がわ
いて来ない。すでに、半年近くも
前に二十歳になっているのだが
私の生活は、成人する前と、一
向に変わっていないのである。

二十歳になれば、法律上では
確かに、成人として認められ
るが、本人にその自覚がなければ
とても、成人と呼ぶことはでき
ない。そこで、私は成人式を迎
えるにはいったいどんな心構え
が必要なのか自分なりに考えて
みた。

また、これからは自分達が新
しい社会を造り上げて行くんだ
と言う心構えも大切である。
同時に近い将来、今度は私達
が次代の若者達を育てて行かな
ければならないのである。
だからと言って教わる、学ぶ
と言う精神も決して忘れてはな
らない。いくら成人したとは言

え、私達はまだ人生の半分にも
満たない。たった二十年を消化
したに過ぎないのである。そし
て、この精神は一生持ち続けて
いかなければならない。人生に
妥協は禁物である。だから私達
は常に、チャレンジャーでなけ
ればならないのである。
大人の墮落が子供まで墮落さ
せ、社会全体を破壊して行くの
である。そうしないためにも、
せめて今述べたことくらいはし
っかりと守って行きたい。

“成人式”を むかえて

関口 弘志



“成人”とは一体どういうも
のであるか? 成人、即ち一人
前の人間として、大人や成人社
会に認められることであり、自
分自身の行動や認識も今まで以
上に重みを増すことである、と
自分は思う。

さて、日本において“成人”
とは承知の通り二十歳以上であ
るが、アフリカのジャングルに



はたちになつて 思うこと

伊藤 千春



住む部族によつては十二歳か十
五歳以上を“成人”と見なす社
会もあるようだ。社会環境や風
俗の違いによつて“成人”とい
う規定が違うのはおもしろい。
しかし、そのような年齢で“成
人”と認めている人たちがいる
以上、我々がその年齢あたりか
ら“成人”としての自覚を持て
ないはずはないだろう。

ただ大事な事は、二十歳を迎
えた事で、人生の四分の一強を
終え、新たな目標への出発のた
めの一つの区切りとして、しっ
かりと胸の奥底に自己の信念と
責任を持つ事だと思ふ。



私も“はたち”を迎えること
になりました。やはり、特別な
気もしますが、責任の荷も重く
なりますが、新たな気持ちで成
人の仲間入りを考えてみました。
はたちというのとはとても大切
な境界線だと思います。ここま
でが子供で、ここからが大人だ
ということはありませんが、や
はり、社会人として認められ
ようになり、選挙権を有するよ
うになります。選挙権を有するよ
うになります。社会から認められ
るだけでなく、自分は社会人だとい
う自覚も必要になってきます。
社会人という自覚をいつも心掛
けるようにしたいと思ひます。
私のはたちになつての目標は、
やるべきことを着実にゆつくり
でも実行することにより自分を
つくっていきたいと思ひます。
真に自分の糧になるものは、
まず自分の力でこなしていきた
いと思ひます。